

テーマ 後・減人口

観光協会

木古内観光のあり方について

多田事務局長 サラキ岬のチューリップ公園について、ご意見を伺いたい。

平野議員 民間中心の会員各位の努力でここまで整備された。観光資源として更に成長するには、海岸整備やトイレの設置、遊具施設やオートキャンプ場にするなど、様々な企画や整備が考えられる。今後は、行政との強い連携が必要と考えます。

竹田議員 観光協会と行政がタイアップし、国の財源活用を入れて整備するべきです。我々も全面的にバックアップしたい。

東出副議長 高規格道路が開通すると交通量が減ることが考えられます。花壇の排水が悪く、いとも聞いているが、

対策を考えているのか。また、ドックラン整備をしてはどうか。

又地議員 冬場は歩道に雪が積まれていて入れない。春のチューリップは素晴らしいが、他の季節にも違う魅力を作れないか。釜谷まで下水道が通り、水洗のトイレが完備されることが理想だ。

新井田議員 自分自身も会員であり、運営の苦労は知っている。地方創生はチャンスであり、行政とタイアップし方向性を示すべきだ。5月以外にもイベントを開催してはどうか。



多田事務局長 運営体制は、できる限り民間で進めて行くのが基本だ。様々な課題があり、

公的な支援をもらう中で計画を立ててやっていく事が必要だ。

工藤理事 メンバーも高齢化が進み、現状のままでは維持も大変。民間が10年間進めてきたこの地を行政は町の財産だと位置づけて、官民一体で観光資源に作り上げたい。

観光イベントと地域の活性化

佐藤会長 人口減対策として地域の活性化が必要だ。寒中みそぎを始めとする各イベントの位置づけや、地域の活性化について意見をいただきたい。

竹田議員 行政は広域観光に力を入れているが、地元の観光も予算を含め今までにはない目玉的なものとしてい

る。これについて観光協会との議論の場を設定しているのか。

多田事務局長 観光行政というものがあるが、行政からは聞いていない。今までのイベントや予算についても行政からの積極的な問いかけはあまりない。

木元顧問 新幹線開業を期に町を元気にしましょうと言うが、行政の基本的なものが見えない。民間が一生懸命取り組んでも行政の考えに入っていないければ取り組みも無駄になってしまう。

工藤理事 お互いの批判をしても何も生まれないし過去は過去だ。今後の木古内の観光を推進していく中で、新しい組織を作るのか、観光協会を存続していくのか。今後、官民一丸となった取り組みをどう持つて行くかが大事です。

上磯郡漁協

漁業後継者への支援策を検討！

三上専務 平成16年の合併には329名いた組合員が、平成26年4月で224名になっている。10年間で105名が減少している。木古内地区は4名の後継者がいるが、何らかの支援策が出来ないか考えている。

新井田議員 後継者はもちろん大事だが、我が町の漁業に対する方向性を組合としてどう考えていくのかを考えるべきだ。

